



News Ripples Across the Pacific Stacey Fujikawa

The 11th of this month will mark the second anniversary of the 2011 Tohoku earthquake. Could you feel the earthquake in Higashikawa? Do you remember where you were, or what you were doing that day? At the time of the earthquake, I was still living in Canada. I would like to share my experience from that day. It was almost 7:30am (11:30pm in Japan) and I had just arrived at work. At the time, I was working for family friends in my hometown. Mr. Fujita was enjoying his usual morning coffee with some of his buddies. The TV was barely ^{オーディブル} *audible in the background, and no one paid close attention to what was on. Shortly after I poured my cup of coffee and turned the sign to "open", Mr. Fujita came to my desk and told me there was something I had to see. The volume was turned up and an announcer was reporting about a major earthquake that had occurred earlier in the day near Sendai. The TV remained on throughout the day. My head was swimming with questions; many of which my coworkers, family, and friends repeatedly asked me. Was I still planning to go to Japan? Where in Japan was I going to live? Would it be safe? Would the JET Programme be cancelled that year? In April, I was offered a spot in the program. I had wanted to live in or travel around Japan for a long time, so I didn't have to think long about whether I would accept; the answer was quite simply, yes. Once informed of my Hokkaido placement in June, I felt confident that I would be safe. It will soon be the end of my second year in Japan. It has been wonderful so far and I'm looking forward to the next.

太平洋を渡ったニュース ステシー・フジカワ

3月11日が来ると東日本大震災から2年ですね。東川の皆さんはその時、地震を感じましたか。あの日、どこで何をしていたか覚えていますか。あの時、私はまだカナダにいました。あの日の私の一日は…。

朝の7時半ごろ(日本時間午後11時半)、職場に着いたところでした。家族ぐるみでつきあいのあるフジタさんのところで働いていました。フジタさんは同僚といつもの朝のコーヒータイム。テレビはかすかに聞こえるくらいで、誰も気にしていませんでした。私がコーヒを注いで、ドアにオープンサインを出してもなく、フジタさんが私の席まで来ました。見なければいけないものがある、と。テレビのボリュームを上げると、アナウンサーが仙台の近くで起きた大地震のことを報道していました。その後は一日中テレビがついていました。

頭の中は疑問だらけ。同じことを同僚も家族も友人も何度も尋ねてきました。「それでも日本に行く?」「日本のどこに住むの?」「安全?」「JETプログラムはキャンセルされない?」。

4月、仕事の打診がありました。日本に住むこと、旅することが長年の夢でした。だから受けるのに時間はかかりませんでした。答えはイエスしかなかったから。6月に配置先が北海道だとわかり、安全を確信しました。まもなく日本での2年目が終わります。素晴らしい日々です。これからの一年も楽しみです。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴのマナビカタ

第96回 エイゴノヨミカタ

「英語の本、どこに売っていますか」「前に授業で読んだような本をもっと読みたい」と生徒が言います。それなら、と家から持ってきました。

まず一冊。「もつ」と言うのもう一冊。それを見ていた生徒が「自分も」と言います。すると最初の生徒が「先生の本だからきれいに読んだよ」。聞いていて心が温かくなりました。こんな機会がもっとあればいいのに、と思います。でもこれがなかなか難しい。授業で多読を扱う機会がない。何より難しいのがレベルの問題です。英語

【ちょっと豆知識】

宮地晶子

^{オーディブル} *audible (聞こえる) という言葉が出ました。ラテン語由来のaudio「聞く」と-ble「できる」の合体。^{エイブル} ableやble(できる)がつく語は多いです。ね。^{チュアブル} chewableはチューインガムのチュウ(噛む)で「噛める」。お薬も水無しで飲める^{チュアブル} チュアブル錠が人気です。^{リバーシブル} reversible「裏返せる」、^{フレキシブル} flexible「融通が利く」、^{ディスボウザブル} disposable「使い捨て」なども。こちらは「ディスプレイのコンタクトレンズ」などと使われています。

で本を読んでみよう、というような子は優秀です。授業で分らない、ということがありません。でも「本を読む」となると全く別問題です。合わなかったり難しかったりします。

最近も娘が「最初の1ページって、意味がわからない」と言います。びっくりしました。シリーズでずっと読んでいるのに、です。でも「しばらく読んでいると、あっ、そっか、ってなる」のだそうです。確かに私もペーパーバックの読み始めは?ということがあります。やり過ごしているうちに、面白くなってきます。洋書の2、3ページで挫折した、という人も多いのではないのでしょうか。

自分に合った本を探すなら、「英語多読完全ブックガイド」(コスモビア出版)がお勧め。日本人にとっての読みやすさを考えた1万冊の本が紹介されています。ちなみに娘が読んでいたのは「Encyclopedia Brown」。人気の少年探偵シリーズです。米国の9~12歳向けですが、実際はもう少し読みやすい。自分の目で確かめて買うといいですね。フィール旭川のジュンク堂で洋書を扱っています。